

## 卒業式式辞

ただいま卒業証書を授与されました 126 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは、入学以来たゆまぬ努力を積み重ね、本校所定の教育課程を修了し、めでたく今日の日を迎えました。また、担任の呼名に凜として立つわが子の姿に、保護者の皆様の感激もひとしおかと存じます。お子様のご卒業、心よりお慶び申し上げます。

皆さんが本校に入学した年は、新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残り、「新しい生活様式」の名の下、毎日の検温やマスクの着用が義務付けられ、対話的な学習や食事中の会話を控えなければならない…そんな毎日でした。

入学翌年にはさまざまな規制が解除され、皆さんの生き生きした表情を多く見るできるようになりました。なかでも修学旅行では、皆さんとともに沖縄を訪れ、貴重な体験を重ねることができました。

平和祈念公園やひめゆりの塔の見学では、慰霊碑の前で手を合わせ、戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。一方で、嘉手納基地から飛び立つ戦闘機や辺野古沖のきれいな海が埋め立てられる光景を目にし、基地問題に苦しむ沖縄の現実を知り、複雑な思いを抱きました。

またバスの車窓から臨むキラキラと輝く海の景色や、沖縄の郷土料理を堪能し、沖縄ならではの魅力を満喫しました。ホテルの部屋では時間が過ぎるのを忘れて、友人と語りあい、明け方まで続いたその時間は一生の宝物になったことでしょう。

さて、本日、巣立ちゆく皆さんに、今年 1 月、アメリカ大リーグで日本人初の野球殿堂入りを果たしたイチローさんがメジャーリーグで活躍するまでの姿を伝えたいと思います。

イチロー選手は、27 歳で大リーグに挑戦しました。日本でも 7 年連続首位打者やシーズン最多安打記録を更新し、大活躍したイチロー選手でしたが、当時は日本人野手の成功例がなかったことや、日本の野球はマイナーリーグ以下という厳しい評価から、メジャーでの成功は疑問視されていました。

アメリカへ渡った当初は、厳しい内角攻めにあい、時には意図的にデッドボールを投げられることもありましたが、しかし彼は、そうした逆境に動じることなく、常に試合で最高のパフォーマンスを発揮できるよう高いレベルで努力を積み重ねていきました。

春のキャンプでは、ピッチングマシン相手に 3 時間、4 時間と黙々とバットを振り続けました。ある時、記者が、なぜそれほど長く打ち続けることができるのかを尋ねると彼はこう答えました。

「自分はこれを掴みたい、この目標を達成したいという思いをもって一球一球に臨んでいる。その目標をクリアしようと打ち続けていると、3 時間でも 4 時間でも集中して打てるようになる」この言葉からも目標を持って取り組むことの大切さが伝わってきます。

またイチロー選手は多くの名言を残しています。その中に、こんな言葉があります。

「壁というのは、できる人にしかやっこない。超えられる可能性がある人にしかやっこない。だから、壁がある時はチャンスだと思っている」

この言葉が示すように、壁は誰にでも訪れるものではありません。日々挑戦し、努力をしている人にこそ立ち上がるのです。挑戦や努力をしていなければ、壁の存在にすら気がつきません。なぜなら、成長の意欲がなければ、乗り越える壁も生まれませんからです。

目標を掲げ、それを達成するために行動していれば、いつしか必ず乗り越えなければならない壁が現

れます。しかし、目標が明確であれば、その壁を乗り越えるために何が必要かを考え、思考や行動を改善することができるでしょう。そして、やがてその壁を乗り越えたときに大きな成長が待っているのです。

皆さんもこれからの生活の中で、壁にぶつかり、心が折れそうになったり、続けてきたことを諦めそうになったりすることがあるかもしれません。そんな時は、ただ嘆いて終わるのではなく、自分自身の成長の機会にしてほしいと思います。

本校で自分の課題と向き合い、自らの殻を破って成長してきた皆さんなら、これから訪れる壁もきっと乗り越えられるはずです。自分の可能性を信じ、困難を前向きに受け止め、力強く突き進んでいってください。

さあ、旅立ちの時です。皆さんの光る汗や弾ける笑顔に、明日から接することができなくなると思うと、寂しさが募ります。春は出会いと別れの季節です。これから皆さんは、新しい世界に力強く飛び立つのです。皆さんが自分の可能性を信じ、力強く羽ばたいていくことを期待しています。

結びに、保護者の皆様には、たくましく成長されたお子様の晴れ姿を目にされて、喜びもひとしおかと存じます。これまでの本校へのご理解とご協力を賜りましたことに、深く感謝申し上げますとともに、心からお祝い申し上げ、式辞といたします。

令和7年3月8日

東京都立江東商業高等学校

校長 智片将也